

第348回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時：平成26年6月16日(月) 18:00

場所：大阪大学医学部講義棟C講堂

テーマ：「腎臓食について再考する

～欠けているのは何で、補うべきは何なのか?～」

ペンシルベニア大学医学部 臨床疫学・生物統計学センター 藤井 直彦先生

「腎臓食の基本は、低タンパク・高カロリーである」 — これは私が研修医だった頃、上司の先生から耳が痛くなるほど繰り返されたフレーズである。しかし、当時の阪大病院の腎臓食（特にネフローゼ食）は、高タンパク・高カロリーだったし、2年目以降研修先だった病院の腎臓食もそうだった。訊けば、「尿にタンパクが漏れていくのだから、口から補わなければならないとつい最近まで考えられていた」と言う。一見正しいように思える理論も、エビデンスの集積に伴いどんどん修正されていく必要がある。これがその時私の胸に刻まれたメッセージだ。あれから10年以上が経ち、腎臓食はどのように変わったのだろうか？そしてこれからどのように変わっていくのであろうか？慢性腎臓病の病態に触れながら、本講演では主に、タンパク質、リン、ビタミンDに焦点を当てて再考してみたい。

世話人：腎臓内科 猪坂 善隆

E-mail：isaka@kid.med.osaka-u.ac.jp

次回、第349回 CNC は、船橋 徹先生のお世話で平成26年7月14日(月)に開催予定です。